

高齢者の生活満足度に子との同居が与える影響*

伊角 彩

大阪大学大学院国際公共政策研究科

日本学術振興会特別研究員 DC2

立福 家徳

大阪大学大学院国際公共政策研究科

要旨

本稿では、子との同居の有無が持つ内生性を考慮した上で、子との同居が高齢者の生活満足度に与える影響を明らかにすることを目的とした。「老研－ミシガン大学－東大 全国高齢者パネル調査＜Wave6 (2002) ＞」の個票データを用いて、順序プロビットモデルによる推計を行った。コントロール変数として、先行研究でよく用いられる年齢、教育年数、世帯収入、婚姻状態、就業形態の他に、親しい友人の数、持ち家や不動産所有の有無、要介護認定の有無を用いた。分析の結果、子との同居の有無の内生性を考慮したモデルでは、子との同居は高齢者の生活満足度に有意に影響を与えていないことが明らかとなった。内生性を考慮した上で高齢者の生活満足度に有意に正の影響を与えていた要因は、年齢、親しい友人の数、負の影響を与えていたのは要介護認定を受けていることであった。男女別に同様の分析を行ったが、女性高齢者においても、子との同居が生活満足度に与える影響は統計的説明力を持たなかった。女性高齢者の生活満足度には、年齢、親しい友人の数、世帯収入が正の影響を、要介護認定を受けていること、常時雇用されていることが負の影響を与えることが示された。

キーワード： 高齢者、生活満足度、子との同居

JEL Classification： D12, I31

*本稿の分析に当たり、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJ データアーカイブから「老研－ミシガン大－東大 全国高齢者パネル調査＜Wave5(1999), Wave6(2002)＞（東京都健康長寿医療センター研究所、ミシガン大学、東京大学）」の個票データの提供を受けました。